

つながりを耕す広報誌

SSKP

ことのは

2025 春号

2025年4月 通巻078号



社会福祉法人

万葉の里



万葉の里HP
QRコード



特集

「普及啓発」の取り組み

～必要な配慮を日常に取り入れるヒント～

高次脳機能障害者支援促進事業 / 発達障害者理解促進体制整備事業

両事業は、関係機関のネットワークづくりを目的とした、「高次脳機能障害関係機関連絡会」、「発達障害者支援関係機関情報交換会」をそれぞれ開催しています。その他にも、地域の事業所を訪問し社会資源を知ることや、それぞれの障害について理解を深めるための講座も開催しています。

それぞれ具体的な各会の取り組みについては、下記にてご紹介します。

高次脳機能障害関係機関連絡会

平成24年度より、年度内で3回の連絡会を開催しています。「コロナ禍以前は、関係機関より提供いただいた事例をもとに、事例検討会を重ね、高次脳機能障害について、どのような理解・環境整備・支援制度が必要か、多機関・多職種で意見交換を行いました。」
「コロナ禍以降は、高次脳機能障害の基礎理解と関わりについて学ぶ研修会、受傷から現在までの生活について、当事者が自分の経験を自分の言葉で語る講演会を開催しています。」
連絡会では参加者にアンケートを取り、結果をもとに企画内容を検討しています。地域の援助職の皆さまと学びを深め、関係機関同士のつながりを育む機会となっています。

発達障害者支援関係機関情報交換会

情報交換会は平成26年度に立ちあげ、年度内で2回開催をしています。最近の企画では、発達障害のある方が「その人らしさがだせて、安心してつながれる」コミュニティや「発達障害のある人の働きやすい環境づくり」などのテーマで、グループワークやトークディスカッション、講演を重ねています。
情報交換会では、療育、教育、医療、福祉、高齢分野などライフステージに関わる支援機関が集まり、年齢によって変化するサービス等の移行を支えるために、関係機関が少しずつ手を伸ばし合い、重なり合って支援すること、児童から成人まで切れ目ない支援につながることを確認し合う場となっています。
今後も、発達障害に関する様々な話題を取り上げ、深めていきたいと思えます。

※高次脳機能障害は、脳卒中などの病気や、交通事故や頭部のけがなどによって、脳が部分的に損傷を受けたため、記憶や言語、注意、遂行などの機能に障害が生じた状態を言います。脳が損傷を受けた場所によって、障害の生じる状態は違います。

(東京都福祉局ホームページ「障害 特性について」引用)



※発達障害は、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害など、脳機能の発達に関係する障害のことを言います。苦手と得意のアンバランスな様子が理解されにくい障害で、子どものうちから、「気づき」と「適切なサポート」、そして発達障害に対する周囲の理解が必要です。

(東京都福祉局ホームページ「障害 特性について」引用)

どちらも外見からは気づきにくい障害ですが、周りの配慮で生きづらさや困りごとを減らすことができます。



←東京都福祉局ホームページ「障害特性について」

特集

「普及啓発」の取り組み

～必要な配慮を 日常に取り入れるヒント～

地域活動支援センターつばさでは、「①相談支援」、「②サロン事業」、「③普及啓発」の3つの事業を、国分寺市より受託しています。今回の特集では、「普及啓発」についてご紹介します。

「普及啓発」とは、市民へ障害に関することを広く知っていただくための取り組みです。つばさでは、「市民福祉講座」、「高次脳機能障害者支援促進事業」、「発達障害者理解促進体制整備事業」と、3つの取り組みを行っています。

国分寺市障害者計画にある、「だれもがお互いを尊重し、支え合い、障害とともに自分らしくいきいきと暮らせるまち」という基本理念を大切に、市民をはじめ多くの方に向けた企画を続けています。

市民福祉講座

障害者センター開設年の平成15年から開催しています。誰もが当たり前に行き交う時間、すべてを包み込む社会について、参加者とともに考える時間となるよう意識して企画しています。講義だけでなく、ワークショップやユニバーサルスポーツなど、体験を通して考える企画も実施しています。できるだけ多くの方に講座を届けたいという思いから、会場開催に加えて、※アーカイブ配信も始めました。障害に関する理解の先にあるものが、「特別な対応を特別にする」のではなく、「日常生活や生活の中に必要な配慮を取り入れる」ことが、誰もが尊重される共生社会につながるきっかけになると願い、多くの方に届く企画となるよう取り組んでいます。

写真は、令和6年1月に開催した市民福祉講座の様子です。講師が掲載された新聞記事を読んだ職員の、誰もが楽しめるスイーツを通して食の未来について、話を聴きたいという思いがきっかけとなり企画が実現しました。「とろける天使のりんごちゃん」は、クリームチーズやムースの中に、クッキーを濾して使うことで、とろける口当たりに加えて食感も楽しむ工夫がされており、参加者で試食をしました。



※当日録画し、後日録画した講座をYouTubeで配信することで、当日参加できない方が、いつでもどこでも視聴できるよう一定期間配信を行っています。なお、視聴希望については、各講座ご案内時に申込受付を行っています。



安心して過ごせる居場所

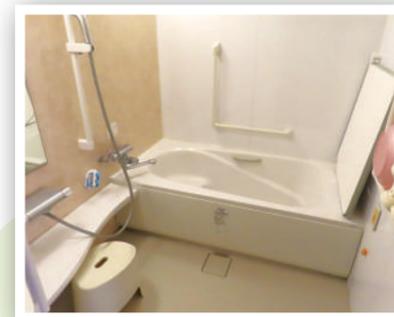
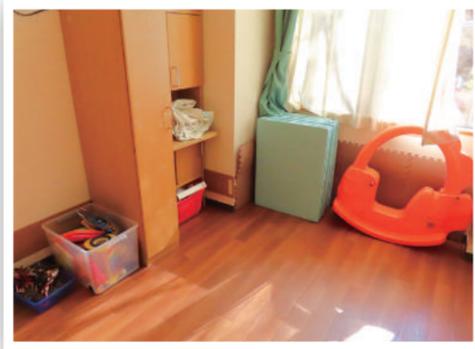
短期入所事業 えんじゅ

えんじゅ 居室のようす

短期入所とは

利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、利用者の心身機能の維持回復だけでなく、家族の介護の負担軽減なども目的として実施します。短期間の宿泊で、入浴や排せつ、食事などの日常生活上の支援を供与します。

対象者	国分寺市在住で、短期入所の支給決定を受けている方
対象年齢	65歳未満
開所日	年中無休
開所時間	24時間 ※入退室は可能な限り国分寺市障害者センターの開館時間をお願いしています
定員	原則2名
TEL	042-321-1226



短期入所事業えんじゅで

一緒に働きませんか？



短期入所事業えんじゅでは、利用者の方々と交流したり、一緒に過ごす支援スタッフ(介護人)を募集しています。

詳しくはコチラ→



シヨートステイとして 地域の中で生活をおくる事は

えんじゅはマメ科の植物で、漢字では「槐(えんじゅ)」と書きま
す、花言葉には「幸福」という意味があ
り、名前が「円寿」と通じることから
縁起の良い木といわれています。
シヨートステイ事業が利用者の生活を
潤し、身近なものとして愛され、皆さ
まの人生をほんの少し幸せにするお
手伝いができたらという思いから、
『えんじゅ』と名付けました。

えんじゅでは、未就学の児童から成
人の方まで、幅広い利用者がいます。
利用される方々の自主性を尊重し、支
援可能な範囲で希望に沿った過ごし
方ができるよう配慮をしています。
利用者には、「将来の自立に向けて一人
でできることを増やしたい」「料理に
チャレンジしたい」「生活リズムを整え
たい」「色々な方とコミュニケーション
を取りたい」など、多種多様なニーズ
があります。

利用者が料理を頑張りたいと思う
場面では一緒に取り組み、ゆっくり自
分の時間を過ごしたい場面では少し
離れて見守る、えんじゅは利用者のあ
りのままを受け入れ、寄り添った支援
を行っています。

最近ではiPadを活用することで、
利用者が好きな動画やアニメを観る、
アーティストの曲を聴くなど、自宅で
普段観ているものが観られるという
安心感につながるほか、介護人と一緒
に歌ったり踊るなど楽しい時間を過
せるよう工夫しています。

利用者が「えんじゅに泊まる経験を
重ねて自信が持てた」「グループホー
ムで家族と離れて暮らすことにチャレ
ンジしたい」と伝えてくださった時自
分の仕事の意味ややりがいにつながり
けることができ、とてもほっこりした
気持ちになりました。

えんじゅは、利用者にとって居心地が
よく、穏やかに過ごせる場所としてあり
続けたい。そして、新たなチャレンジと
発見ができる場所でもありたい。さま
ざまな利用者から、これからも親しみや
すく愛されるよう努めていきます。

(課長補佐 津田 和久)

Let's!

take on new challenge together

【東京経済大学コラボ事業】

万葉の里の関係機関・団体の方々にスポットをあててインタビューを行うコーナー「Let's(レッツ)」。第7回は、平成21年から15年にわたり利用者・職員と多くの学生たちの交流の場を築き、「福祉と経済をつなぐ」活動を^{おびきひろなお}実践してきた東京経済大学経済学部の尾崎寛直教授にお話を伺いました。



インタビュー時の尾崎教授

万葉の里と関わるきっかけとなった経緯について

ゼミとして国分寺市内でボランティア活動に取り組む中、当時の国分寺市障害者センター施設長との出会いがありました。障害者の就労支援の考えとして、「外に向けた就労の機会の提供」「地域に見える活動」をしたいと伺いました。就労継続支援事業B型(一む)以下、一むで洋菓子製造・販売を実践する中で、職員は福祉職で必ずしも販売のノウハウに長けているわけではないので、経済や経営を学ぶ学生の知恵を注入できないかということでした。ゼミとしても専門知識と学習を活かし、福祉の世界とつながることができたらというのが、コラボ事業発端の動機です。

活動の経過や変化などについて

一むの洋菓子製造企画に関わり、販売実践を行う「デモ販売」という形が基本です。商品が売れる、売れないという結果が明確で、学生にとっては

やりがいを感じられた一方で、販売方法や新たな商品の提案などを話し合う「合同会議」で、学生が当然と思っていたことが利用者には負担に感じられたこともありました。そこで利用者や学生の関係を、販売活動後に一緒に食事をしたり、利用者会議に学生が参加するなど、交流主体に変化させ、関わりを深めるようにしました。「合同会議」は学生と職員とで定期的に行う形となり、毎回真剣に議論が行われ、学生にとってもよい経験となっています。

また、平成24年度からは生活介護事業太陽との「ラボ事業」にも着手し、利用者との交流を始めました。利用者の「社会参加」というテーマで、3年間連続で利用者の日中活動の成果を発表する機会として「市民だれでもアート展」を開催しました。創作品などを展示し、地域の方々に活動の意義を知っていたく機会となりとても好評でした。現在では「障害者スポーツ」という視点で、利用者の健康増進につながる運動プログラムを一緒に考えながら、取り組んでいます。先の取り組みや経験がベースとなり、学生や利用者職員が入れ替わっても、お互いスムーズにコミュニケーションや連携が図れる関係性が築けていると感じます。

学生たちはどのようなことを学び、感じて、どのような変化がありますか。

学生には「他者」との交流という観点から、同質なコミュニケーションを超えて、「コミュニケーションを身につけよう」と伝えています。SNSの普及で生の交流が分断され、リアルな接点が増える現状がありますが、社会の中にはさまざまな人がいると知ることや成長につながることを

えています。「ラボ事業」に共感する学生が毎年集まり、ゼミは毎年定員を上回っています。障害のある方との交流を楽しみにして、喜びを感じているようです。自分の知らない「他者」との交流を求める学生のニーズは確実にあると感じます。交流活動を通して自分自身が相対化される経験を経て、学びの質が深まっています。「ラボ事業」を始めてから、福祉職や福祉事業を中心に行う公益財団法人、障害者就労訓練など、福祉に近い就職先を選ぶ学生が毎年のように出ています。

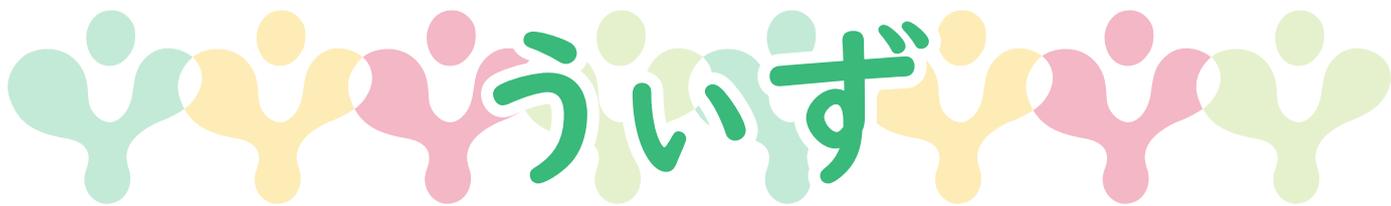
読者へのメッセージをお願いいたします。

私自身「ラボ事業」の意義として、人が作ったものを感謝して受けとる生身のやりとりの交換を行う「等身大の経済」を国分寺で取り戻したいという想いもありました。「デモ販売」では利用者の皆さんが作る商品が当たり前前に評価され、活動が認知されてファンがついているという事実にも、相互理解へのつながりを感じています。またこの間、障害者就労やスポーツに対する社会の関心も急速に高まり、学生にとっては利用者や職員との交流の経験が、社会に出てからそのまま活かせると感じます。これからも「人と人をつなぐ」きっかけ作りの場としていきたいです。

Let's connect welfare with economy by sweets!



毎年発行されるゼミ論集には学生からコラボ事業に対し感謝や喜びの声も寄せられている。



職員リレー紹介



こばやしひとみ
小林 日東美
生活介護事業この里
好きな言葉: 一期一会
趣味: ドライブ

前職は、高齢者の訪問介護職員として働いていました。「その人らしさ」を大切にしている個別ケアを心がけていました。訪問開始時に表情が硬い方も、時間を重ねていく内に「また来てね」と言ってもらえることが何より嬉しいことでした。そうした経験を活かし、ステップアップをするため、万葉の里に入職しました。

私が前職から今まで日頃から心がけていることは、その人らしくいられること、そして、居心地の良い空間づくりです。利用者、家族、利用者の支援に携わってきた方々の思いを引き継ぎ、できていたことが継続してできること、どうしたらできないことができるようになるか一緒に考えること、利用者の生活が豊かになることを心がけて支援をしていきたいと思っています。利用者や家族に寄り添い、心も体も元氣になり、笑顔あふれる毎日を過ごせたら嬉しく思います。

これからも、利用者の気持ちを汲み取り、何を伝えたいのか、何がしたいのかを考えて、できる限りのことを全力でサポートしていきたいです。そして、万葉の里で笑顔あふれる毎日を過ごせよう、これからも頑張っていきたいです。

次回は熊谷美麻さんの紹介です



みずのしんや
水野 慎也
総務課
好きな言葉: なんとかなる
趣味: サッカー(週1回)
フットサル(週2回)

万葉の里で働き始めてから14年目となりました。温かい人柄の職員が多く、職場の人間関係に恵まれたからこそ、健康に働き続けることができたのだと感じています。

私は入職時から現在まで、総務課の職員として経理の仕事を中心に法人全体の運営に関わる業務をしてきました。大学生時代に会計の勉強をしていたので、経理の仕事は自分に合っていると思っていました。福祉の運営に関わる会計は特殊で難しく、理解するまで時間がかかりました。現在も日々勉強しながら業務と向き合っています。

また、総務課の仕事は、他部署の職員との連携や、法人外部の方々とのやりとりで、毎日多くの方と関わりがあります。当たり前のことかもしれませんが、誰にでも丁寧に対応することを心がけています。そして、誰にでも安心してもらえる存在でありたいと思います。

利用者と直接関わることは少ないですが、いつも施設を利用する利用者の皆さんの笑顔に元気をいただいています。これからも利用者の皆さんが安心して、笑顔で利用できる施設を運営できるよう、法人を支えていきたいです。

次回は稲垣航大さんの紹介です



ほしの
星野 さゆり
生活介護事業この里
好きな言葉: 『朝は希望に起き
昼は努力に生き 夜は感謝に眠る』
趣味: 古道具を見る事・集める事
読書、低山ハイク

万葉の里では、給食提供に携わる栄養士としておよそ12年間勤めて退職しました。2020年の秋、縁があって万葉の里へ再就職しました。前職の栄養士も大切な仕事でしたが、利用者の皆さんと直接関わる仕事がしたいと思い、支援職に応募し、この里に配属されました。

この里では、封筒作成やチラシ・新聞配布、ミサンガ作成、季節商品の作成、市内イベントへの出店など、多種多様な仕事に取り組んでいます。新しい仕事が来た時は、利用者一人ひとりに合った作業方法はもちろん、色々な経験や体験ができるように模索し、工夫を重ねています。仕事を通して自信を得て、意欲が増して、楽しんで取り組む挑戦する利用者の姿は、とても輝いています。個性豊かなこの里の仲間と出会い、共有できた時間は、私に自信を与えてくれました。そして、利用者、家族、職員、関わりのある皆さんの叱咤激励が、私を支えてくれています。この仕事は一人では出来ないし、感謝の気持ちでいっぱいです。これからもずっとこの里の皆さんを応援しています。

これからは、

次回は澤内祐里さんの紹介です

通巻：第78号 発行日：2025年4月1日
発行：社会福祉法人 万葉の里 〒185-0024 東京都分寺市泉町2-3-8
制作協力：株式会社文伸 印刷：社会福祉法人 ななえの里 ともしび工房
発行所：特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-17 ヴェルドアラ祖師谷102号室 定価50円
編集：社会福祉法人 万葉の里 広報委員会

「いやしけ古事」

今回の特集では、「普及啓発」について紹介させていただきます。

「普及啓発」は、誰が・誰に(Who)、何を(What)、どこ(When)、どこ(Where)、どんな目的で(Why)、どのような方法で(How)行うのか、いわゆる5W1Hを明確にして、企画することでも成否を分けます。これが企画する側の腕の見せ所でもあり、一方でどうしたら良いか企画側が悩み苦勞するところです。

「市民福祉講座」について、誰に向け、どんな目的でどのようなテーマ選びをしているのか、担当者へ聞いたところ、講座でいただいたアンケートや研修会で集めた情報などを参考にしているとのことでした。

ちなみに「市民福祉講座」の令和6年度の講座をみると、4月には、自閉症啓発週間を踏まえ「発達障害の理解と支援」(参加者72人・会場23人・YouTube配信49人)、8月には、身近に活用が必要となる制度として「わかりやすい障害年金」(参加者133人・会場39人・YouTube配信94人)、1月には、今、スポットが当たっているものとして「インクルーシブスイーツ」(参加者41人・

会場18人・YouTube配信23人)をテーマに掲げています。「インクルーシブスイーツ」の発想は、私も初めて知り、とても勉強になりました。

また、どのような方法で伝えるか。昨年からはYouTubeでの動画配信も試みています。YouTubeの参加者数を見ると、講座には行けないが自宅からなら参加できるというニーズには応えられたのではないかと思います。

高次脳機能障害関係連絡会、発達障害者支援関係情報交換会は、関係機関のネットワークづくりのために立ち上げられたものですが、構成員には、支援機関、家族会、当事者の他に専門家がアドバイザーとして加わっています。専門家からアドバイスをいただくことで、連絡・情報交換の場に止まらず、障害の特性を理解し、現場で適切な支援につなげる糸口になっているのではないのでしょうか。

「普及啓発」は地域福祉 障害者福祉を支えるベースとなる事業でもあります。引き続き、関係者のご理解と協力のもと工夫を凝らし、事業の充実に向けていきたいと思えます。

(理事長 空地隆彦)

Infomation 第2回 万葉の里オープンデイのご報告

令和6年10月13日(日)、国分寺市障害者センターにて無事開催することができました。新たな取り組みとして、アドベントカレンダーを各事業で制作・展示し、インスタグラムで発信しました。

当日は、利用者が普段行っているプログラムの体験や、製作品の販売を行いました。ステージでは、衣装を身にまとった利用者のフラダンスで、にぎやかに締めくくりました。多くのお客さまにご来場いただき、会場では「久しぶり!」「元気だった?」と懐かしいつながりや「障害者センターが近くにあるのは知っていたけど、中に入るのは初めて」など、新しいつながりも耕された時間となりました。今後も、このつながりを大切にしながら、地域の皆さまとともに歩んでいきたいと思えます。

MANYOUNOSATO.INFO

イベント情報など
発信しています。
フォローお願いします!

編集後記 『ことのは』がリニューアルされて2回目の発行となりました。皆さま、お楽しみいただけたでしょうか。私は、リニューアルするタイミングで広報委員会に参加し始めたので個人的にも2回目の発行となりました。リニューアル後、表紙に「つながりを耕す広報誌」というタイトルがついていることにお気づきでしょうか。バックナンバーはHPにも掲載されておりますので是非過去の号と見比べてみてください。法人に関わる人たちの言葉を『ことのは』にのせて、つながりを耕していきたいと思えます。是非次号も手に取ってご覧いただければ幸いです。(広報委員会)

